

西高生に求めるもの ～1年生 総合的な学習の時間～

4月26日（水）6校時に実施した1年生の総合的な学習の時間は、「校長先生から西高生に求める姿について講話を聴き、自分に求められているものを知る」ことが授業のねらいでした。

授業の最初に、平成29年度の1年生の特徴について話しました。

今年の1年生は「挨拶」がよくできる学年です。元気よく、大きな声で自然に挨拶ができる生徒が多いです。とても良いことだと思います。将来、社会に出た時に「挨拶ができない人」は社会人としての常識に欠けた人だと思われ、円滑な人間関係を築くことができません。大きな声で自然に挨拶をすることは、相手とのコミュニケーションの第一歩であり、相手の人と良好な人間関係を築いていこうとする意思表示になります。

大きな声で挨拶をすることが苦手だという人もいますが、高校3年間で社会に出るための良い習慣を身につけてほしいと思います。

次に、職場や地域社会の中で他の人と一緒に仕事を行っていく上で必要となる能力について考えました。経済産業省では、職場や地域社会で活躍する上で必要となる12の能力を「社会人基礎力」として示しています。

生徒は6～7人のグループに分かれて、自分にとって最も必要だと思う能力となぜその能力が必要だと思うかという理由について話し合い、グループの意見をまとめてクラス全体に発表しました。多くの生徒が次のような能力が必要だと発表しました。

- ・主体性（物事に進んで取り組む力）
- ・発信力（自分の意見をわかりやすく伝える力）
- ・課題発見力（現状を分析し目的や課題を明らかにする力）
- ・実行力（目標を設定し確実に行動する力）
- ・傾聴力（相手の意見を丁寧に聴く力）

高校の学習は、先生から教えられた知識をおぼえる、答えのある問いの解き方や正解を暗記するだけではなく、正解が1つではないような課題について自分の頭で考えたり、仲間と相談したりして最も良いと思われる解決策を見つけ出すという学習も求められます。

グループでの話し合いを進行する、その中で自分の考えを説明する、人の意見を聞く、意見をまとめる、まとめた意見をわかりやすく発表するという、この「総合的な学習の時間」で行った活動がまさにそれです。

将来仕事をするときには、必ずこのような機会があります。氷上西高校では、各教科の授業とともに学校行事やボランティア活動など多様な学びの機会をとおして、生徒一人一人が自分の能力と可能性を伸ばしてほしいと思います。

（校長 高橋信之）